

もしも、がんと診断されたら… 慌てず「ステージ(病期)」の確認を

がんの進行程度を示す「ステージ(病期)」は、
適切な治療に欠かせない指標

がんと診断されると「がん=不治の病」とうなだれる人も少なくありません。しかし、まずはがんの進行具合を確認することが大切です。がんは、周囲の組織へ広がり(「浸潤」)、血液やリンパ液の流れに乗って移動してほかの臓器でも増殖(「転移」)し、進行していきます。このがんの進行程度を示すのが「ステージ(病期)」です。

進行の程度によって有効な治療法が異なるため、ステージは治療方針を決めるうえで重要です。

各ステージのおもな特徴

詳細はがんの部位によって異なります。

病期	進行の程度	有効な治療法
0期	がんが発生した場所にとどまっている	手術や放射線治療でほぼ完治
I期	がんが発生部位にとどまっている	手術に加え、放射線治療や薬物療法(抗がん剤治療など)が必要
II期	がんが周囲の組織に深く広がったり、周辺のリンパ節※に転移している	
III期	がんが周囲の組織に深く広がったり、周辺のリンパ節※に転移している	薬物療法が中心。薬物療法のあとに手術を行う場合もある
IV期	がんがほかの臓器にも転移している	

※リンパ管の途中にあるもので、がん細胞はリンパ節を通して全身へ広がる性質がある。

がんは決して他人ごとではありません。



健診・検診を 受けましょう

健診・検診にかかる
時間は長くても半日程度。



半日の時間を作れば
受けられます。

どんな病気も
進行すれば
命を脅かすことに。



進行する前に
みつけることが
大切です。

進行するまで
自覚症状がない病気は
たくさんあります。



健康に自信があっても
健診・検診を
受けましょう。

子宮がん 検診

子宮頸がんの発症には、おもに性交渉で感染するヒトパピローマウイルス(HPV)が関与しており、若い女性に子宮頸がんが増えている理由として、性交渉の低年齢化があげられます。

HPVはごくありふれたウイルスで、性交渉経験のある女性の8割が一度は感染します。感染してもそのほとんどが免疫機能によって自然に排除され、感染が持続した非常にごく一部が前がん状態の異形成を経て、がんになります。

子宮頸がんは、 なぜ若い女性に 増えている？

子宮頸がんのリスク要因

- 性交渉の経験がある
- たばこを吸う

誤解しないで！

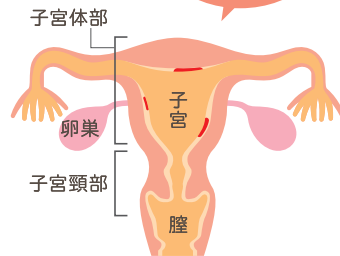
子宮頸がんは性感染症ではありません。HPVは性交渉で感染はしますが、喫煙や免疫力の低下などのさまざまな要因ががんの発症に関係しています。

40歳代からは「子宮体がん」にも注意

子宮体がんは子宮頸がんとはまったく違うがんで、女性ホルモンのエストロゲンが発症に関与しています。40歳代から増えはじめ、50～60歳代にもっとも多くみられます。

一般的に子宮がん検診とは、子宮頸がんの検診のことをいいます。そのため、子宮体がんを早期発見するためには、月経時以外の「不正出血」を見過ごさないことや、医師と相談のうえ、「子宮体部細胞診」という検査を受けることが有効です。

*子宮がん検診として「子宮体部細胞診」を実施している自治体もあります。



子宮体がんは、
子宮体部の内膜に
できるがん

20歳以上の人は 2年に1回「子宮がん検診」

子宮頸がんは進行するまで自覚症状がなく、異形成や初期がんでみつけるためには子宮がん検診の受診が欠かせません。国では20歳以上の女性に2年に1回、「子宮頸部細胞診」による検診を推奨しています。

こんな症状があれば 婦人科へ

月経時以外の不正出血やふだんと違うおりものの増加は、子宮頸がんなどの疑いが。すぐに婦人科を受診しましょう。

子宮頸部細胞診はこんな検査

子宮頸部の細胞を専用のブラシで軽くこすって採取し、がん細胞がないかを調べる検査。子宮の触診(内診)で医師が子宮の形状や大きさを調べたあとに行われます。
*対象年齢や費用、検査内容などは職場や自治体によって異なります。

検査時間は約10分。
全然痛くないよ



「超音波検査」も受けて、子宮や卵巣をチェック!

経膈超音波検査は女性に多い子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣のう腫などの発見に役立つ検査で、子宮頸部細胞診と同じ体勢で行います。子宮がん検診のときにいっしょに受けて子宮や卵巣もチェックしましょう。

*通常は、経膈超音波検査は子宮がん検診に含まれないため自費となります。

子宮のようすが
みられるよ

